

令和5年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立嶺町小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・技のポイントを明確に伝えることで、技能向上のために進んで練習に取り組む児童がいた。
- ・年度初めに各学年が系統的な指導を意識し、当該学年で何を身に付けるべきかをおさえ、指導にあたることができた。
- ・一斉一律な課題解決ではなく、個々の実態に合った課題設定を行ったり、場を選択したりしながら学習を進めていくことができるようになってきた。

(2) 課題

- ・個の学習の質をさらに深めるため、協働的な学習や個別最適な学び、友達と協力して試行錯誤させながら、学習を進めていく必要がある。

2 東京都統一体力テストの結果分析

(1) 正答率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	・今年度の結果が未着のため、後日追記。	(第4学年時) ・20m シャトルラン (全身持久力) が全国平均・都平均を大きく下回っている。	/
第5学年	・今年度の結果が未着のため、後日追記。	(第5学年時) ・男子はソフトボール投げ (巧緻性・瞬発力)、女子は20m シャトルラン (全身持久力) が全国平均・都平均を大きく下回っている。	(第4学年時) ・男子はソフトボール投げ (巧緻性・瞬発力)、女子は20m シャトルラン (全身持久力) が全国平均・都平均を大きく下回っている。
第6学年	・今年度の結果が未着のため、後日追記。	(第5学年時) ・男子はソフトボール投げ (巧緻性・瞬発力)、女子は20m シャトルラン (全身持久力) が全国平均・都平均を大きく下回っている。	(第5学年時) ・反復横跳び (敏捷性) が全国平均、都平均を大きく下回っている。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題のもち方が分からない児童が多い。児童自身が自分の運動技能について知る必要がある。 ・運動経験の差により、基本的な技能の差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に必要なこと、うまくいくために必要なことなど考えた事を友達に伝えることができる時もある。 ・自己の課題解決に向けた方法や練習の場を見つけることに課題が見られる。 ・課題に対する解決方法を伝えたり、教え合ったりことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に気を付けて運動を行うことはできている。 ・普段の運動経験なども含めて技能差により、運動へ主体的に取り組む姿勢に差がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><5年生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な技能は身につけている児童が多い。 ・各運動の行い方について理解している児童が多いが、技の習得につながらない児童もいる。 ・観察カードや学習カードへの記入から、ポイントを理解している児童が多い。 	<p><5年生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に適した課題を見付け、できるようになるための場を選んだり、活動を工夫したりすることが少しずつできるようになってきた。 ・友達と技のコツを伝え合ったり、チームでよりよくするための話し合いが上手に行える児童が多い。 ・一方で、考えたことや、アドバイスを友達に伝えることが難しい児童もいる。 	<p><5年生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・器械運動など「できる」「できない」がはっきりする運動ではできる技に取り組むが、苦手な技には挑戦しない児童が多い。 ・運動に進んで取り組み、きまりを守って運動に取り組むことができる。
<p><6年生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な運動能力に課題がある。(筋力・敏捷性) ・その領域に必要な技能ポイントを見付けることができるようになってきた。 	<p><6年生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことを他者に伝えることができるようになってきた。 ・自分に必要な課題が何かを具体的に分かっておらず、楽しそう、友達がやっているからという理由で、課題解決の時間が終わってしまう児童が多い。 	<p><6年生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不得意な運動に対して、粘り強く取り組むことが苦手な児童が多い。 ・この運動が「できるか、できないか」だけで判断している児童が多い。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びの特性に応じた楽しさを味わわせるため、児童が成功体験を得やすいように、課題やルール、用具などを工夫する。 ・運動のポイントを明示し、基本的な動きを身に付けられるような授業展開をする。また、運動量の多い運動遊びを多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分自身の課題を把握したり、解決方法を考えたりすることができるように学習カードを活用する。また、各種の運動遊びの楽しさに触れることができるように、いろいろな場の設定を工夫する。 ・友達のよい動きを見付けたり、自分が工夫した動きを動作や言葉で伝えたりする時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がすすんで運動遊びに取り組めるように、場や行い方を工夫する。 ・楽しく運動遊びを行うためには、規則やルールを守り、友達と仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたりすることが大切であることを指導する。 ・低学年から学習規律や服装の指導を行う。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">学習カードの工夫などをして、運動のポイントを押さえることで、自己の課題を見付けられるよう指導する。具体的数値を計測したり、ICT 機器を活用して動きを撮影したりすることで児童自身が課題を見付けられるようにする。運動量を確保した授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none">課題にあった活動を工夫できるよう、教師から練習できるポイントも含めて場を提示し、その中から選べるようにする。授業の中で運動のポイントを言語化し、用いることで、児童同士で伝え合ったり、教え合ったりできるように指導する。自分の考えをもつための時間と自分の考えたことを、友達に伝える時間を確保する。	<ul style="list-style-type: none">易しい場や課題から運動を始めたり、場を工夫したりすることによって個人差にあった運動に取り組み、すべての児童が成功体験を積めるようにする。児童の「やってみたい」を引き出す単元計画を作成する。目標達成に必要な事項を、児童自身が課題を段階的に設定し、活動を調整できるように、目標の設定の仕方、スモールステップで到達できるようなポイントを具体的に示し指導する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">単元のゴールイメージをもてるよう、動画をみてポイントを見付ける活動を単元の最初に行う。技能ポイントを明確にし、獲得できるような感覚づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none">課題を解決するために必要な方法、手立てを充実させる。それらをはじめに提示するのではなく、課題に応じて提示していくことで、必要感をもち、課題解決できるようにする。「身体の使い方」に着目して、技能を向上させるために何が必要かを考えられるようにしていく。	<ul style="list-style-type: none">「できそうだ」「やってみたい」「上手になりたい」と思えるような単元全体のゴール設定を心掛ける。粘り強く取り組むことができるよう、課題解決の時間を確保する。